



第62回富士見祭「Supreme」 今年のテーマは

今 年度の富士見祭のテーマは「Supreme」でした。supremeを和訳すると「最高の、至高の」となります。このテーマ通りの富士見祭になるよう、学生全員が一丸となり準備を進めました。台風が迫る中での開催になりましたが、この逆境でも士気が下がることはなく、寧ろ上がったように感じられ、最高の富士見祭にすることができました。実行委員長としてこの富士見祭に携われたことを大変嬉しく思います。最後にご協力していただいた先生方をはじめとする関係者の皆様にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

富士見祭実行委員長 4年 高橋 逸



第 62回富士見祭より補綴部研究会と学生会が共催している「歯科体験教室」に手伝い係としてお邪魔いたしました。「歯科体験教室」とはオープンキャンパス参加者の方にアルジネート印象材による印象採得と石膏模型作成を体験していただくというものです。体験者方の手腕や先輩方の明瞭な説明に感服すると共に、負けられない、乗り越えたいという競争意識が生まれ、手伝い係ながら良い刺激を与えていただきました。この気持ちを起爆剤にすることにより、今後の学校生活をより良いものにしたいと思います。

(この面タイトル下の標語は三輪君作です)
生命歯学部 2年 三輪 旬(右)



校友会からのご挨拶 卒業したらぜひ校友会へ 入会しましょう

橋本 博之 日本歯科大学校友会 常務監事



学 生の皆さん、KOYU Timesを読んでいますか？
本年5月までは学生の皆さんと接する機会が多かったと思いますが、ご存知の通り校友会は学生の皆さんにいろんな形で支援しています。
学生への特別講義、合同合宿への参加、スポーツ・文化・学術大賞の授与、卒業式後に行う校友会・歯学会入会歓迎会開催、文化祭への参加、夏期および冬期歯学体への援助、SCRIP日本代表選抜大会の支援など校友会が学生の皆さんを支援している事業はたくさんあります。

校友会への入会資格は日本歯科大学を卒業し会費を納入することにより校友会員になれます。入会の主なメリットとして学術フォーラム、ポストグラデュエートコース等、各種講演会・講習会への参加資格、また校友会の福祉・共済事業として疾病・休業・災害・死亡時の支給があります。

そして一番大きなメリットは、卒業後、地元に戻り開業あるいは勤務した時、困ったことや相談したい事があった時など、親身になって相談に乗ってくれるのは他大学の先生ではなく日本歯科大学校友会の先輩です。

学生の皆さんは校友会を理解し、校友会と学生の皆さんとの距離が近くなったと実感していますが、近年校友会への入会率が低くなってきています。日本歯科大学は創立以来110年以上続く歯科界のトップランナーです。皆さん卒業すると日本歯科大学卒業と言うブランドを身につけるわけです。

是非、卒業したら日本歯科大学校友会に入会して下さい。お待ちしております。

特別講義

Tokyo 平成29年11月2日(木) 18:15 ~

場所：日本歯科大学附属病院 牛込ホール

講師：石黒 智彦先生(99回)

演題：歯科医師国家試験の現状と対策

「76.9%、この数字は何かわかりますか」

この一言から始まった講義は国家試験が近づいているという現実を痛感させられた。先生方はよく、あと国家試験まで1年少ししかないぞとおっしゃるが、1年もあるならなんとかかなるだろうと思っていた自分がいた。しかし、6年生になる前にこの講義をきいてその認識で合格できるほど甘くないという事実を理解することができて本当に良かった。なかでも衝撃的だったのが、ネガティブな言葉を言わないように意識して合格した生徒の話であった。「言葉を変えれば行動が変わる」というがまさにそれを表したような事例で、私にも当てはまる場所があったので身近な部分から変えていこうと感じた。

また必修の難易度の高さ、各領域の注意点を聞いていくなかで膨大かつ詳細な知識が必要であると思ったが、それをさらに強固なものにするのは私の今行っている病院実習であるとのことだった。器具の名前や治療の手順などを理解し、先生の治療を理解して先読みすることでその経験が臨床問題を解くことに繋がっていく。病院実習を深く考えていなかった私にとってはこれからの取り組み方を考える良い機会であった。

国家試験とは人生のかかった試験である。引き返すことは困難。薄々みんなわかっていたことではあろうが面と向かってこの言葉を聞く機会はそうそうない。今回の講義で得たことを生かし、6年生に向けて決意を固めて国家試験合格を目指したい。

生命歯学部5年 宮田 隆之



Niigata 平成29年11月30日(木) 16:20 ~

場所：日本歯科大学新潟生命歯学部 アイヴィホール

講師：石黒 智彦先生(99回)

演題：歯科医師国家試験の現状と対策

今回、本校出身で麻布デンタルアカデミー講師の石黒先生が、5年生を対象に歯科医師国家試験にどのように臨めばよいのかを講義してくださいました。テーマは大きく3つあり、「受験生になるための準備」、「国家試験のカタチ」、「今からすべきこと」でした。「受験生になるための準備」では予備校の受講生の実例を通して、国試に絶対に合格するのだという決意が必要だとおっしゃっていました。というのも、競争相手は現役生だけでなく、既卒生も含まれます。既卒生は国家試験の厳しさを経験し、本気で勉強してきます。対して現役生は本試験、総合試験など一定の点数を取れば合格できる試験しか受けたことがありません。私たちはこれから受ける試験で基準点を目標に勉強するのではなく、自分の取れる限界の点数を伸ばすことを目標に各々が決意して勉強に取り組む必要があると思いました。「今からすべきこと」で、個人的に印象的だったことは、登院期間をいい加減に過ぎないように、とおっしゃっていたことでした。石黒先生の講義は例年6年生で受講していましたが、私たちは機会に恵まれ登院期間が残されたうちに受講することができました。登院期間は残り少ないですが、今まで以上に気を引き締めて、座学で学んだことを臨床で確認し、臨床で新しく学んだことを座学で確認しながら、これからも勉強していきたいと思っています。

新潟生命歯学部5年 南 祥之



ポストグラデュエート・コース

Aコース 7月22日(土) 23日(日)に生命歯学部でA

コース「日常臨床における基礎・診断・治療をあらためてとらえるー歯周・矯正・画像診断・解剖からみた重要ポイントと活用ー」が開催された。参加者は23名で、22日には沼部 幸博歯周病学講座教授による「歯周治療を行ううえで重要な、歯周組織の解剖学的知識を学ぶ」の講義と、小森 成附属病院診療部・矯正歯科教授による「歯科矯正学的事項に基づいた診断ならび治療上の重要点を学ぶ」の講義が行われ、翌23日には代居 敬歯科放射線学講座教授による「三次元的画像形成法であるCT, CBCT, MRI, ECHOの概説」の講義と佐藤 徹解剖学第一講座教授による解剖実習の事前情報などが講義され、実習が行われた。



Bコース 8月6日(日)に新潟生命歯学部アイヴィホールでポストグラデュエート・コース

Bコース「歯科治療時に注意すべき全身疾患とその対応ー最新的心肺蘇生法(2015年)と救急対応(静脈路確保・薬剤投与)ー」が開催された。担当講座は歯科麻酔学 佐野 公人教授で15名の校友会会員が受講した。

実習は①気道確保：マスク換気・声門上器具・気管挿管の説明と手技の確認②静脈路確保：静脈路にカテーテルや針を挿入し輸液等の経路を得る手技の確認③最新的心肺蘇生法：BLSの手技の確認と2015年版の説明を行った。

緊急時での正確な対応が求められる処置なので、正しい知識とスキルが求められるので、継続的な訓練が必要であることを再確認した。



Cコース 8月27日(日)に生命歯学部本館7階

臨床実習室でポストグラデュエート・コースCコース「これから始めるマイクロスコープ診療ーマイクロエンド初級ー」が開催された。担当講座は歯科保存学講座と新潟生命歯学部 歯科保存学第1講座で五十嵐 勝教授以下14名のスタッフと株式会社ベントロンジャパンとモリタのスタッフ4名であった。校友会本部からは担当の小倉 陽子常務理事と学術委員2名が参加した。

受講者15名は、今年も受付初日で満員になった難関の申込をクリアした先生達であった。初めてマイクロスコープに触れる受講者に、1人に1台ずつ割り当てられていたために、実習では十分に練習することができた。今後はアドバンスコースの開催も含め、より多くの先生が受講できることが必要と思われた。



平成29年度生命歯学部冬期球技大会開催さる

晴天に恵まれた平成29年11月25日(土)午前10時から生命歯学部体育館2階フロアにて、平成29年度冬期球技大会が開催されました。

開会式では、羽村 章生命歯学部長、菊池 憲一郎生命歯学部学生部長、佐藤 全孝校友会常務理事の挨拶があり次に学生会会長、誠和会会長、体育会会長、実行委員長の挨拶の後、誠和会指揮による力強い校歌斉唱があり学生達への

エールが送られました。競技はドッチボールと大縄跳びの2種目でドッチボールは各クラブや学生各組織等の18チーム参加によるトーナメント方式で、大縄跳びは16チームが4チームに分かれて対抗戦が行われました。各種目熱戦が繰り広げられ、学生達は終始笑顔で球技大会を楽しんでいました。



校友会・歯学会入会オリエンテーション 開催される

(東京)

11月30日(木)に生命歯学部135講堂で6年生を対象に「校友会入会オリエンテーション」が開催された。参加した学生は約110名で、まず校友会からは小倉 陽子常務理事の、そして歯学会からは志賀 博副会長の説明があり、最後に入会希望者の入会用紙の記入があり散会となった。



(新潟)

11月30日(木)に新潟生命歯学部411講堂で6年生を対象に「校友会・歯学会入会オリエンテーション」が開催された。参加した学生は63名で、まず歯学会より佐藤 聡副会長の、校友会からは徳田 和弘常務理事の説明があり、最後に入会希望者が入会用紙に記入をした。その後、アイヴィホールで石黒 智彦(99回卒)先生による「歯科医師国家試験の現状と対策」の特別講演が行われた。参加者は5年生の84名で倉治 康男専務理事の開会の挨拶では「日本歯科大学の卒業生としてプライドを持ち、緊張感を持って臨んで欲しい」と要望があり、藤井 一維学部長の総評で閉会となった。



国家試験体験記

後輩へのアドバイス

私の学生時代を振り返りお伝えすること、後輩の皆さんのお役に立てればと思います。

2.3年生は基礎系と臨床系の座学中心でしたが、できる限り苦手な科目をつくらない様に心がけました。授業を聞いてもなかなか理解できなかった部分はそのままにせず、教科書を読んだりノートを作ったりして自分なりに理解できるようにしていました。

4年生になると臨床実習が始まり、毎回の実習に忘れ物がない様に準備をし、実習の時間内に課題を終わらせることに精一杯でした。全ての実習について復習することは難しかった

ので、毎回の実習の最初に行われる実習テストを復習することでその実習のポイントとなることをおさえるようにしていました。

5年生の病院実習では実際に先生方の診療のアシストをすることで教科書では想像しづらかった診療手順等を学ぶことができました。診療に必要な器具を準備し、一人の患者さんに継続してアシストにつくことで治療の流れや患者さんへの対応を学びました。実際に国家試験の問題の中で診療手順を問うものがありましたが、病院実習でのことを思い出し先生ならどうするだろうと考えて解き、正解を導くことができました。

6年生では卒業試験、国家試験に向けてグループ学習をしました。一緒に苦手なところを勉強したり、どうしても覚えられないところは語呂をついたり、間違った問題を解き直した

りました。ひとりで勉強していると気づかなかったところもグループで学習することでカバーしあえたと感じました。また、行き詰まった時は勉強の合間に友人といつもより良いランチを食べに行ったりしてストレスを分散するなど、仲間と過ごすことで乗り越えられました。勉強をしていく上でストレスは誰もが感じるものですが、集中する時とリラックスする時のメリハリをつけ、勉強することを習慣化し無理なく続けていくことが大切だと思います。

皆さんが国家試験に無事合格することを祈っています。



附属病院
臨床研修歯科医
岩田 良子
(106回)

こうゆう先輩 第12回

趣味三昧

品川区開業
鈴木 淳 (77回)



ある本でこんな記事を見つけた。「40代のうちに将来続けられる趣味を二つみつけなさい。そして趣味を通じて付き合える仲間を作りなさい」

40代半ば頃、家族で江ノ島にいった。展望台から海を見下ろすと4艇のカヤックがゆったりと冬の海を漕いでいった。冬でも海で漕げるんだ!

翌年、夏休みの家族旅行で沖縄県座間味島でシーカヤックを体験した。海面をスーッと滑る感じ。着座が低く、水中の魚と目が合うほどだ。艇に食材やキャンプ用品を積んだらアウトドアも満喫できる。そうだ、カヤックを始めてみよう!!

葉山でカヤックショップを見つけ、レクチャーを受けた。平日休診日には無人島まで漕ぎ、ラ

ンチを作り波音をBGMに読書、昼寝して帰ってくる。なんて、今までにない贅沢な時間を過ごした。週末には仲間と一緒に漕ぐ距離を増やしていった。同じ価値観を共有できる4人の仲間ができた。

多摩川や子安運河〜みなとみらい〜氷川丸前を漕いだこともあった。伊豆に遠征したりカヤックレースに参戦するようになると海の難しさや自然の怖さも経験するようになる。地形を知り、気象を常に気にかけて安全に海と付きあうことの大事さを身をもって感じている。

大学時代はライトミュージック部に所属していた。卒業し働き始めると、演奏の機会などなく、クラブに顔を出すこともなかった。

47才の時、中高大学の同期で、同じくライトミュージック部員だった同級生が他界した。お別れ会を主催したが、ライトのOBが多数集まった。現役諸君も手伝ってくれた。これは彼の人徳によるものが大きいのだが、この時改めてライトミュージック部の結束力の強さを実感した。その後このお別れ会が

縁でOBや現役生とも連絡をとるようになり、バンドも再結成し活動するようになった。毎年『OBバンドでコンサート会』を開催するようになり、今年で6回目を数える。昨年は5周年を記念し沖縄ライブを決行。ライトOB沖縄在任組が全て采配し大成功だった。

年を重ね、現役学生とスポーツしたら敵わないが、音楽なら同じ土俵に立てるのが音楽部のアドバンテージかもしれない。

最近、自分の先輩後輩の2世がライトの部員、部長を務めるようになり、また一つ楽しみが増えている。カヤックの海仲間とのバンドも結成し、海遊び、演奏会も多彩。おかげさまで忙しい余暇を満喫させていただいている。



埼玉県人会開催の報告

平成29年10月5日(木)に、池袋サンシャインシティ内の『ジョーズサンハイニューヨーク』にて埼玉県人会を開催いたしました。校友会からは小谷田 宏先生(61回)、渡辺 裕先生(68回)、重竹 淳一先生(68回)、大井 了先生(71回)、松崎 俊哉先生(76回)、学内からは小川 智久先生(82回)はじめ他9人の先生方に出席していただきました。在校生は24名参加し、全員で38名の県人会でした。

はじめに、小谷田先生と小川先生から開会のご挨拶をいただき、小川先生の乾杯で宴会が始まりました。例年と異なり、今年の会場は夜景を一望できる中華料理のお店で行ったため、会話も弾みより一層先生方との親睦を深めることができました。その後エントランスホールにて記念撮影を行ったのち二次会へと移動し、



遅くまで楽しい時間を過ごしました。

5年生になってからの先生方とのお話は、とても興味深いものばかりで、多くの先生方とゆっくりお話ができて、とても有意義な時間となりました。これからも埼玉県人会が盛大に開催されることをお祈り申し上げます。

最後に校友会ならびに、お忙しい中ご出席くださいました先生方に深く感謝申し上げます。

生命歯学部5年 久 星子

日本歯科大学校友会 Limited Attendance Seminar

学術フォーラム 2018

平成30年2月25日(日) 日本歯科大学 生命歯学部 3F・7F

講演	テーブルクリニック
講演1 13:15開演 9:30-11:30 歯ぐきに入る歯周病と歯肉腫瘍のポイントから 歯科医師が応答まで～一般医との協力の重要性～ 小谷田 宏 先生(61回) 松崎 俊哉 先生(76回)	TC1 臨床実習 9:30-11:10 ボンディングシステム本家の技術者 小谷田 宏 先生(61回) 松崎 俊哉 先生(76回)
講演2 13:15開演 9:30-11:30 これからAIインプラント治療 松崎 俊哉 先生(76回) 渡辺 裕 先生(68回)	TC2 臨床実習 13:20-15:00 スマホを使って、歯肉腫瘍！ ～本館に出来る？ 方角に備えて！～ 小谷田 宏 先生(61回) 松崎 俊哉 先生(76回)
講演3 13:15開演 13:20-15:00 歯科医師-歯車機を駆るカルテ記録について ～元厚生労働省医政局の経験で～ 小谷田 宏 先生(61回) 松崎 俊哉 先生(76回)	TC3 臨床実習 15:10-16:50 見て聴いて！ Nd:YAGレーザーのテクニック 小谷田 宏 先生(61回) 松崎 俊哉 先生(76回)
講演4 13:15開演 13:20-15:00 リグロス®成功の鍵 - フラップ手術の熟練 - (リグロス®実践編) 小谷田 宏 先生(61回) 松崎 俊哉 先生(76回)	ランチョンセミナー 13:15開演 12:00-13:00 かかりつけ歯科医が持つべき 口腔がんの検出と治療 小谷田 宏 先生(61回) 松崎 俊哉 先生(76回)
講演5 13:15開演 15:10-16:50 歯周病治療のグローバルシステム 松本 博利 小谷田 宏 先生(61回) 松崎 俊哉 先生(76回)	13:15開演 12:00-13:00 リグロス®ってどうなの？(リグロス®基礎編) 小谷田 宏 先生(61回) 松崎 俊哉 先生(76回)

ミニデントルショー：9:00-17:00 3F・132教室・134教室

詳細は校友会ホームページを参照してください。
下記QRコードから校友会ホームページにアクセスできます。
※学生の皆様は無料で参加できます。

東京 顔の百科事典 編集：日本顔学会編

出版社：丸善出版 出版年：2015/9
請求記号：WE705 N71 登録番号：100034705

顔に関する、あらゆる分野の研究者で構成される顔学会発行の本。矯正や審美歯科など、歯科学とも関わりのある顔を俯瞰的に理解するのに最適の一冊です。多岐に渡る研究者が身近な話題を取り上げたコラムは読み物としても楽しめます。生命歯学部図書館 1月の企画展示テーマ「顔」と併せて、是非ご覧ください。

新潟 病気がみえるvol.1-vol.11 編集：医療情報科学研究所

出版社：Medic Media 出版年：2008-2017
請求記号：D2-I 登録番号：000137211他

平成25年に学生から希望があり購入したシリーズ本です。今年11巻が発行されました。医科関係の中でも貸出が多い書籍です。各分野がコンパクトにまとめられていてビジュアル資料満載の書籍です。歯科を学ぶ上での関連分野として利用することをおすすめします。

図書館からの
推薦図書

診療室での物語

カルテ No.18 入れ歯メーカーと 入れ歯教習所



日本歯科大学
新潟病院
総合診療科
菅原 佳広
(86回)

『入れ歯の調子が悪く、長い間義歯の調整を繰り返しているのに全く良くならない』とか『近所の歯科医院を全部回ったが義歯が合わなく、とてもつらい』さらには『孫に風船を膨らませてあげようとして義歯がはずれて笑われた』などなど、大学病院に来院する患者の中には通常よりも大きな悩みを抱えている場合がある。ただでさえ難しい状況であるにもかかわらず、大学病院だから最先端の技術で…最高の設備が…等と患者の期待は大きく、やっかいなことが多い。大

学病院だからといって義歯に関しては特別な作り方があるわけではなく特別な設備もない。教科書通りの義歯製作では同じことの繰り返しになってしまうはずである。

一般的に義歯の治療は、義歯を『製作すること』と『調整すること』であると思われる。義歯ができあがった後は、あたって痛いところを削るか、噛み合わせを整えるか、パネを調整するか…。しかし、前述の様な患者にとってはほとんど効果がないことは明らかである。なぜなら、原因は義歯そのものにはないからである。実はその不具合の原因は、『使い方』にある場合がほとんどである。義歯の痛みが取れない場合は噛みしめ癖が考えられる。右側が痛いとき右側を削り、左側が痛ければ左側、前が痛ければ…という具合に痛い場所がまわるだけでなく、噛みしめ癖がなくなることはない。『良く噛んで食べると認知症予防になる！』と信じていて必要以上に強く噛んでいる患者もいる。『良く噛む』とは回数を多く噛むことであり、『強く噛む』ことではないが、多くの

患者はひたすら強く噛んでいる。そして強く噛むタイプの患者は唇や舌を噛んで口内炎の頻度が高くなる。仕事や趣味などで力仕事や物作りをしたりスポーツに夢中になったりしている患者は、その時にずっと噛みしめていることが多い。午前中はそれほど具合が悪くないのに、夕方になるにつれ義歯の締め付け感が増して義歯を付けていることに苦痛を感じる。夕食時には痛みが強く食べられないといったパターンとなる。また、適切な総義歯が入っているにもかかわらず、下顎の義歯がはずれて食事ができない場合は姿勢が悪いことが原因であることが多い。義歯が乗る顎堤に対して口腔底の位置関係が変わるため猫背で食事をしたときと背筋を伸ばしてあごを引いた姿勢で食事をしたときでは義歯の安定感が大きく異なる。当然のことながら姿勢が良い方が義歯は安定するのだが、義歯装着者は高齢で背中が丸くなっている場合が多い。他にも風船を膨らます時やブクブクうがいをする時に義歯がはずれるという訴えがあ

る。総義歯は吸盤のように吸い付いているため頬を膨らませると吸着がはがれて脱落してしまう。そのことを知らない患者ははずれること自体を悩んでしまう。そんな時は歯と歯を噛み合わせた状態で膨らますとか、ブクブクすると問題が生じない。つまり作り方も大事だが、それ以上に使い方が本当は大切である。

例えるなら、性能が高く乗り心地の良い自動車を作るのが自動車メーカーであり、その自動車を正しく扱う術を教えてくれるのが自動車教習所である。我々が義歯の製作や調整をしても入れ歯メーカーとして義歯そのものの改善でしかない。義歯を扱う患者を教育する教習所が備わっていなければ自己流でうまく扱えた患者だけが良くなり、自己流で解決できない患者は難民となる。義歯の使用経験のない歯科医師が教習所の教官になるのは難しいことだが、患者に寄り添う気持ちがあればきっと結果を出せるであろう。入れ歯教習所の教官として教科書に書いていないことも日々の診療室では必要である。

校友の 歴史の重さ 手渡して 頼むぞ後輩 母校の未来 伝統を 守ってゆきます 我々も 富士見・浜浦 熱き心で

